

第 3 回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和 4 年(2022 年)2 月 15 日(火) 午後 3 時 00 分～

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2 階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員、小野寺委員

【市民委員】

新井委員、高橋委員、比留間委員、加納委員、佐藤委員、畑中委員、影山委員、川岡委員、平井委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、新野委員、多治見委員、津嶋委員、後藤委員、星野委員、

【環境保全課長】

中村委員

事務局

小笠環境共生部長兼クリーンセンター長

【ごみゼロ推進課】

高尾課長、高橋課長補佐、山口主任

欠席者 **協議会委員**

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

内田委員

【市民委員】

岩見委員

【施設課長】

井上委員

傍聴者 あり

次第

1. 会長挨拶

2. 各団体の取り組みの発表

①日野市資源リサイクル事業協同組合

②ひの市民リサイクルショップ回転市場

③ひの・まちの生ごみを考える会

- ④イオンリテール(株)
 - ⑤(株)セブン-イレブン・ジャパン
 - ⑥商工会
3. 中間検証
ごみの更なる減量
4. その他

配布資料

- 資料1 各団体の発表について
- 資料2 第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート(ごみの更なる減量)
施策⑦参考資料
- ・廃棄物の減量及び再利用に関する計画書
 - ・事業系ごみ・ごみ処理手数料

■主な内容

1. 会長挨拶

会長より挨拶。

2. 各団体の取り組みの発表

①日野市資源リサイクル事業協同組合

資源物の再資源化について(回収から資源化までの流れ等)

Q: サランラップの芯は資源化できるか。

A: 芯が薄いものと厚いものがあり、薄いものは資源化できる。

Q: ダイレクトメール(圧着紙)は資源化できるか。

A: ダイレクトメール(圧着紙)の少量の処理はできる。

Q: 難古紙の資源化の取り組みについて教えてほしい。

A: 難古紙も資源化できるように取り組んでいるが紙が余剰していると不要となってしまう。資源化している業者では難古紙専門で扱っている所もある。トイレトペーパーにリサイクルしている業者もある。古紙業界でも難古紙の再生を考えているので、将来的には銀色の紙パック等も資源化できるようになってくると思われる。

②ひの市民リサイクルショップ回転市場

回転市場の活動について(回転市場の歴史・活動内容等)

Q: どのような商品がよく出ているか。

A: 食器類や雑貨が多く出ている。衣類よりも多い。食器類は購入だけでなく持ち込みも多い。困窮家庭に衣類の提供をしている。

Q:福祉作業所との協働はどのようなことなのか。

A:設立当初の周年イベントで、あおい鳥さんに雑貨品販売を担当してもらい収益は、あおい鳥さんへ。レジスターを使いこなしていたみなさんが開業する際、寄付したというエピソードがある。

その後周年フェアの際にはあおい鳥さんのパンを販売してもらっている。

Q:ランドセルや制服はとりあつかっているか

A:ランドセルを取り扱っている。制服を探しに来る方もいるが現在はあまり物がない。

意見:過去にある社会福祉法人で大量の食器を処分したことがある。このような情報を確実に取得できるよう、市内の社会福祉法人の状況を把握している社会福祉協議会との関係を深めたらよいのではないか。

③ひの・まちの生ごみを考える会

・ひの・まちの生ごみを考える会の活動について

(会の歴史・活動内容等(リサイクル農園等))

・生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動について(ダンボールコンポストや講習会等)

Q:せせらぎ農園の話が出ていたが出口戦略が大事。市民農園で堆肥を消費すればよいのではないか。市民農園の利用者は比較的に環境に理解があると思われるので可能ではないか。単価を上げることも考えられる。

A:出口が大事だと考えている。中学校区、さらには小学校区でそのような場所があるとよいと考えている。農のあるくらしづくり協議会でそのような話をしている。平山や三沢でお母さんのグループができており交流がある。あらゆるところで堆肥がつかえるとよい。

④イオンリテール(株)

イオンリテール(株)のごみ減量・リサイクルの取り組みについて

(資源物の回収、LOOP等)

Q:洗剤容器の繰り返し利用の話があったが食品もあるのか。

A:洗剤としてアリエールやジョイがあるが、食品としてキシリトールガムも取り扱っている。今後、拡大していきたい。

Q:食品廃棄物の取り組みを教えてください。

A:サステイナブル経営ということで食品廃棄物の削減にも取り組んでいる。廃棄物の廃棄割合に関して目標を設定し、廃棄状況も把握し、数値管理を行っている。

⑤(株)セブン-イレブン・ジャパン

(株)セブン-イレブン・ジャパンのごみ減量・リサイクルの取り組みについて

(ペットボトルリサイクル、手前どりPOP等)

Q:プラスチック資源循環促進法の取り組みを教えてください。

A:プラスチック使用製品を環境配慮型の製品に切り替えようとしている。

⑥商工会

商店でのごみ減量・リサイクルの取り組みについて(環境に配慮した活動等)

3. 中間検証

事務局より資料 3 について説明。

【質疑応答・意見等】

Q:「新型コロナ拡大により資源物回収量が増えた」ということは検証したのか。

A:細かい検証は難しいが、生活スタイルの変化など、一般的に言われている話から間接的に判断している。

Q:3月など需要が増える季節に合わせて不用品のリユースをPRする予定はあるか。

A:引越し等で物を買替える方をターゲットにしたPR記事を、3月のエコーに掲載する。
意見:ごみ減量に協力する事業者の裾野を増やすなど、ポストコロナを睨んで、行政は先手を打つべき。

Q:コロナの蔓延防止重点措置や緊急事態宣言の期間に、ごみ量にどのような影響があったのか調べたい。データを提供いただけるか。

A:提供可能な範囲で用意する。

意見:テレワークの増加等により、ごみが大幅に減っている事業者が多い。コロナが落ち着かないと、事業者のごみ減量に向けた現状分析は困難。

意見:新聞紙の回収量は減っているが、回収業者の廃業も多く、集団回収も減っている。行政回収がなくなると新聞紙がごみになってしまうことは課題。

4. その他

・事務局より日程等を説明。

次回 令和4年5月16日(月)午後3時~午後5時

クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室